阪神淡路大震災追悼行事　講話

皆さん、おはようございます。
本日 1 月 17 日は、1995 年に発生した阪神淡路大震災から 30 年という節目の日です。この震災では、6,400 名を超える尊い命が奪われ、無数の家屋が倒壊し、多くの方々が大切なものを失いました。
この場を借りて、改めて犠牲になられた方々に深い哀悼の意を表します。

阪神淡路大震災が私たちに残した教訓は、「災害はいつどこで起こるかわからない」という現実です。震災直後、被災地では電気や水道が途絶え、多くの人々が厳しい環境の中で避難生活を送りました。しかし、その中でも、地域の人々が力を合わせて助け合い、力強く生き抜こうとする姿がありました。この共に助け合う「共助」の精神が、多くの命を救い勇気づける、復興の礎となりました。

また、30 年前の震災をきっかけに、日本では防災や減災に関する取り組みが大きく進みました。耐震基準の見直しや災害時の救助体制の整備など、震災の教訓は私たちの社会にしっかりと活かされています。しかし、こうした仕組みだけでなく、私たち一人ひとりが自らを守る「自助」の意識を持つことが何よりも大切です。災害時には、まず自分の命を守ること、そして、その後に、周りの人々を助けられるよう準備しておくことが求められます。

私も含め、震災を経験した者は、この震災の記憶や教訓を忘れることなく、震災を経験していない皆さんに、伝える役割があります。
今日、この 30 年の節目に、皆さん一人ひとりが防災について改めて考える機会にしてほしいと思います。
やがて来るであろう、南海トラフ地震。先日、今後 30 年以内に起きる確率について、「これまでの『70%から 80%』が『80%程度』に引き上げられた」と公表されました。
日々の生活の中で「もし地震が起きたら」「もし避難が必要になったら」と常に自分の行動をイメージし、備えておくようにしましょう。

最後に、震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、私たちが今ある命の尊さに感謝し、周囲の人々と支え合って生きているということを改めて確認する一日にしましょう。

以上で、阪神淡路大震災追悼行事にかかるメッセージとします。